

教 育 委 員 会 会 議 次 第

平成 2 7 年 2 月 2 0 日 (金) 15:00

教 育 委 員 会 会 議 室

1 開 会

2 案 件

(1) 議案

議案第 4 2 号 「平成 2 7 年 3 月北九州市議会定例会への提出議案等について」

(総務課長)

(2) 協議

協議① 「公立幼稚園のあり方について」

(学校規模適正化担当課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- 1 開催年月日 平成27年2月20日（金）
- 2 開催時間 15:01～15:59
- 3 開催場所 小倉北区役所庁舎東棟6階
- 4 出席委員 古城和子（委員長） 吉田ゆかり シャルマ直美 伊藤一義 彌登 章
垣迫裕俊（教育長）
- 5 事務局職員 教育次長 岩淵 英司
総務部長 小澤 周三
指導部長 渡邊 義隆
教職員研修・企画担当部長 大庭 正美
生涯学習部長 宇佐美 健次
人権教育担当部長 大竹 順司
総務課長 平野 義人
企画課長 松成 幹夫
施設課長 佐村 良夫
指導企画課長 今村 剛志
指導第一課長 弥永 和利
指導第二課長 平池 秀幹
特別支援教育課長 入尾 忠之
教職員課長 太田 清治
学事課長 吉竹 直人
学校保健課長 安藤 光春
生涯学習課長 梅下 勝己
学校規模適正化担当課長 簗田 昌一
耐震工事担当課長 崎間 泰三
教育振興担当課長 山本 浩三
人権教材改訂担当課長 石川 浩士
権限移譲担当係長 田島 利晃
- 6 書 記 総務課庶務係長 田内 淳也
総 務 課 鈴木 忠之
- 7 会議の次第 別紙のとおり

教育委員会会議録（平成27年2月20日）

1 開 会

15:01 古城委員長が開会を宣言。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・議案第42号「平成27年3月北九州市議会定例会への提出議案等について」

2 会議録署名委員の指名

古城委員長が会議録署名委員に、シャルマ委員と彌登委員を指名。

3 案 件

(1) 公開案件

協議① 「公立幼稚園のあり方について」

本議案の内容を学校規模適正化担当課長が説明。

[説明要旨]

- ・論点と協議スケジュール
- ・幼児教育を取り巻く現状
- ・これまでの検討
- ・今後の検討の視点

古城委員長／資料中、研究実践のテーマとして掲げられている「幼児教育における各園共通のテーマ」とは、どのようなものを考えているのか。

学校規模適正化課長／幼児教育においては、「遊びのなかで学びの姿勢を身に付ける」だとか、「学びに繋がる活動をする」ことが教育活動の中心になり、幼稚園の教育要領に則って教育課程を編成し、遊びに繋がったところで学びの成果を得られるという形のもの求められる。それは、特別な支援を要する子どもたちが一緒であったとしても、もしくは小学校への円滑な接続の研究にあっても、ベースにあるものと考えている。全ての幼稚園教育において基本となるもの、という意味である。

古城委員長／具体的な内容については、今後検討するのか。

学校規模適正化課長／その予定である。

伊藤委員／公立幼稚園の研究実践の研修会に、私立幼稚園の先生が参加されることはあるのか。

学校規模適正化課長／例えば去年の秋に八幡東幼稚園で公開保育を行ったときには、私立幼稚園や保育所にもお声かけをした。公開保育の場に参加し、その後の研究発表会も受講していただくといった取り組みを行っている。

伊藤委員／参加状況はどうか。

学校規模適正化課長／先程の事例においては、正確な数字は手元にないが、保育所の関係者が、私立幼稚園より若干多く参加していただいた。私立幼稚園の先生も十数名参加いただいたと思う。その他には、将来的に幼稚園教諭になりたいと大学で勉強中の方もおられた。

シャルマ委員／7頁の「近年の幼児教育においては・・・」というところで課題が指摘されているが、いわゆる小1プロブレムといわれる小学校生活への不応状態の子どもさんのなかには、発達障害傾向があることによって、そのような状態が現れている子もいるのではないかと思う。それは私自身が感じており、8頁(2)の「特別な教育的配慮を要する幼児に対応するための研究実践」は期待が大きいところではないかと思う。また、「特別な教育的配慮を要する幼児の受け入れを行いながら」という箇所があるが、このように子どもたちが通う場であり、しかも実践を通して幼稚園の先生方から私立幼稚園に発信をすることは、とても重要ではないか、小学校に就学した後の子どもたちの様子に大きく関わってくるのではないかと思う。今の公立幼稚園における特別な支援を要する子どもたちの受け入れ状況を伺う。

学校規模適正化課長／全市的な傾向として、公立幼稚園ではおおむね園児のほぼ1割程度が発達障害など何らかの障害を抱えていると認識している。そういった疑いが認められるケースを含めると、幼稚園によっては2割～3割の園児がそうした状態にあると考えている。私立幼稚園では特に専門機関等の証明のない子どもさんについて、どのように接していったらいいのだろうかというような悩みがあると聞いている。

垣迫教育長／確認だが、私立でのいわゆる発達障害をもっている、あるいは疑われる幼児の受け入れ状況はどうなっているのか。

学校規模適正化課長／私立では、県の補助金の交付対象者数で申し上げると、およそ1%である。公立幼稚園では平成26年度は331人の園児のうち39人程、11%いるが、私立では94園で147人、1%の子どもたちを受け入れているという状況である。

古城委員長／公立11%に対して私立1%ということか。

学校規模適正化課長／ただ、全体の数でいくと公立39人に対して私立147人であるので、市内のそういった子どものほとんどを公立で受け入れているといった状況ではなく、分散している。

垣迫教育長／絶対数が多いのは、私立の園児が元々1万数千人と多いので当然と思うが、受け入れている子どもの割合が公立の方が高いのは、保護者や私立の方からの「公立に受け入れを担って欲しい」という期待が大きいと、そういう声があるということか。

学校規模適正化課長／私立幼稚園における発達障害などを抱える子どもたちの受け入れについては、園によって温度差がある。県が専門機関で診断を受けた園児に加配の教員をつける補助制度を整備しており、この制度を活用して受け入れる園もあるが、特にそういった子どもがごく少数にいるところなどは、「どのように子どもたちに接したらいいのか」など、専門的な見地から指導方法についてのアドバイスがほしいといった要望がある。

指導企画課長／参考までに、小学校入学以降の特別支援学校と特別支援学級、それから通級指導を受けている児童、アンケート調査によって発達障害の疑いがあるとされている児童、これらの全体の割合は1割弱、9%～10%だと記憶している。

年齢によって違いはあると思うが、公立幼稚園の傾向は小学校入学以降の全国の数値とそれほど変わらない数字だと思う。

古城委員長／となると、私立で1%というのは少ないように思うが、その様な配慮を要する子として見ていないということなのか、それとも、受け入れを断っているのか。小学校に入ったときに10%というのが典型的なのであれば、小学校に行ってからの方が、障害がよりクリアにわかるということか。

学校規模適正化課長／私立の1%の数字については、いわゆる保護者の了承が得られて、そして専門的な機関から障害があると診断された子どもたちに限定されている。幼稚園側でこの子はそういった障害を持っているのではないかなど疑いをもったとしても、保護者の了解がなければそういう認定に至らない。そうすると、県に教員の加配の人員を申請しようにもカウントはされず、そういうケースはかなりの数にのぼると思うが、その実態については把握していない。

古城委員長／明確にはなっていないということか。

学校規模適正化課長／そういうことである。

シャルマ委員／市内に数箇所ある、障害がある子どもたちを専門に養育している通園施設にいる子どもたちが、各特別支援学校や小学校の通級に行くので、その子どもたちが指導企画課長の述べた数に入るのではないかと思う。

古城委員長／9頁(2)のところだが、教育センターを拠点にして、そこで基本研修や専門研修をし、その際は公立の先生だけでなく私立にも開放して、今以上に参加者を増やす努力をするという意味と理解してよいのか。

学校規模適正化課長／今は私立幼稚園の新規採用教員に、市立教育センターで研修を行っている。そのほかに、主任研修や職務の経験年数別の段階的な研修メニューが用意されているが、今後は、こういった研修も私立幼稚園にも参加をいただくなど、拡充を図りたい。ただし、実施体制などの都合があり、今後の検討課題と認識している。

教職員研修・企画担当部長／教育センターの研修については公立幼稚園の実践発表や、公立幼稚園の園長が講師になり、私立幼稚園の先生が受講者として実施するというのもやっており、公立幼稚園の研究成果を発信する機会にもなっている。

伊藤委員／小学校との人事交流で、幼稚園教諭免許をもっている小学校の先生が幼稚園に配置されていると思うが、幼稚園を経験して、小学校に戻ったときにおいて成果はあるのか。

教職員課長／幼小の連携ということで見方も広がり、成果はあると思っている。幼稚園教諭免許を持っている先生を配置するものであり、該当者をリストアップして、ご本人の気持ちも量りながら声をかけるというところである。

古城委員長／具体的に何人くらいか。

教職員課長／今、15名程である。ただ、全てが各自の意向に沿って配置されているかという点、なかなか難しいところもある。これについては、今後考えていく必要があると思っている。

伊藤委員／小学校の先生になりたいと勤めていて、幼稚園に配置される。先生のモチベーションはどうなのかなと思うが。

教職員課長／実際に伊藤委員が言われたようなことはある。今年度は、そういった反省を生かし、対象となる方全員に、幼稚園に行く気持ちがあるかということ、校長を通じて確認した。そのなかから交流する先生を決めている。

垣迫教育長／確かに伊藤委員のご指摘のようなケースもあるかもしれないが、逆に行ってみて非常に良かったという方もいると聞いているが、実態はどうか。

教職員課長／幼稚園でずっと働きたいという方もいる。

学校規模適正化課長／幼稚園教諭15人のうち1人、小学校教員として採用され、現在は園長をされている方もいる。

シャルマ委員／特別支援学校のコーディネーターの先生が、各学校の現場に出かけて先生方にアドバイスしたり、研修したりというようなことを既にされているが、公立幼稚園も、そのような私立幼稚園に出かけての支援といったことは考えているのか。

学校規模適正化課長／そのような形での、巡回といったようなことは行っていないが、将来的にはそのような形も検討したい。また、特に発達障害の子どもたちに手腕を発揮できるマイスターの教員が色々な相談を受けている、そういった実態はある。

特別支援教育課長／特別支援学校のコーディネーターということだが、特別支援学校のセンター的機能として、地域における講習会なども行っており、私立幼稚園に参加を呼びかけている。また、早期支援コーディネーターが1名おり、積極的に保育園などに出かけて行って教育相談の啓発と、就学相談等を受けており、一層拡充させたいと考えている。

協議終了

(2) 非公開案件

議案第42号 「平成27年3月北九州市議会定例会への提出議案等について」

本議案の提案理由を総務課長が説明。

〔提案理由要旨〕 次の各項目について、北九州市議会定例会に付議又は報告する必要があるので、この議案を提出する。

- ① 平成27年度北九州市一般会計暫定予算（教育委員会所管分）について
- ② 平成26年度北九州市一般会計補正予算（教育委員会所管分）について
- ③ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例」について
- ④ 「北九州市教育委員会教育長の職務に専念する義務の特例等に関する条例」の制定について
- ⑤ 「北九州市教育施設の設置及び管理に関する条例」の一部改正について
- ⑥ 請願の処理経過

シャルマ委員／25 ページの、学童保育クラブ等への空き教室活用について伺う。昨年は小学校15校で、今年度も小学校15校ということだが、実際に小学校を活用することで良かった点など、現状を伺う。

総務課長／実際、年度で15校の余裕教室を使って、学童クラブを運営してもらっている。他方で、児童館等を利用しているという校区もある。学校を利用する利点は、地理的な面において、小学校の子どもたちが、直接うちの近くにそういう場所があるということ点では、利点かと思う。ただ、余裕教室という観点からしたときに、その学校ごとに条件が違うので、一概に、空き教室というものがない学校もある。関係部局から要請があった場合には、校地内の利用だとか、もしくはそれも難しければ、近隣の土地をとというようなことで、今はケースバイケースで、協議を受ければ相談にのり、できる範囲で教育委員会としては教育体制を整えていくということを進めているという状況である。

伊藤委員／学校の中で、学童を空き教室でやるとおやつとかが出るので、おやつだけ取りに来て、そのまま友達と帰って、おやつを一緒に食べてというふうになってしまうので、ケジメとして別の空間をつくる必要性はある。空き教室を使うと、出入りがしやすくなることや、おやつだけもらって帰るとかなると、トラブルなどが生じ得るので、敷地内なり、近くに学童があるというのが理想的かと思う。

原案可決

シャルマ委員、彌登委員より、以下の点について報告

[報告要旨]

・マイスター教員による公開授業の視察について

シャルマ委員／13日に、吉田小学校の6年生の国語科の授業を参観した。言語の活動を、その先生は2年間にわたって非常にこまやかに積み重ねておられ、聞く・話す・書く、全てにおいて、とにかく時間をかけて積み重ねてきているのだらうなという実践であった。

そして、授業だけではなくて、その後の児童会活動についても公開されていたのだが、6年生が学校全体をリードしており、児童会活動も非常に活発なもので、そのマイスターの先生の力が学校全体に発揮されているなということを感じた視察であった。学力に関して、なかなか向上しないという議論がある中で、「北九州市の子どもたちの未来は、こういう子どもたちもいて明るいぞ」というような気持ちになり、非常にうれしかった。

それで、そういう素晴らしい実践だったからこそ、本当に感動する授業というのを多くの先生に参観してもらいたいと感じた。その経験は、自分のクラスに戻ってきたときに、明日への意欲になるのかなと思った。参観できる仕組み、たくさんの先生方に来ていただける仕組みづくりの整備をお願いしたい。もう1つは国語ならば、中学校の国語科の先生等が、小学校に来て一緒に協議したり、あるいは、中学校のマイスター先生の国語の先生、小学校の国語を専門にしている先生たちも見に行っても一緒に協議したりとか、そういったことが、より小中一貫連携教育や学力向上に関わっていくのかなと思った。

彌登委員／このマイスターの先生は5年、6年の2カ年間、その授業を担当していて、子どもに対する情熱を感じた。本当に、中身のある授業をされていた。見事な一体感で、マイスターの授業を見て、見学していた多くの若い先生方も、非常に参考になったのかなということであらためて感じた。その授業を受けた子どもたちが、今後、この授業を受けたことによって、彼らの人生にも影響するような、非常に中身のある濃い授業をされていて、現場で頑張ってくださっている先生方の頑張りに、頭が下がる思いだった。やはり2年間、毎日毎日の積み重ねが、いい授業に積み重なっていくということを体験して、見ている我々も感動したという授業であった。ぜひ、これからもそういう先生方から、多くの先生方が影響を受け取ってもらえれば、北九州市は本当にいい教育ができていくのではないかと、あらためて感じた。

そして、先生の言葉遣いが、子どもたちに対しても非常に丁寧な言葉遣いであった。また、問いがしっかりしていて、やはり話すこと、聞くことが徹底されており、積み重ねを感じた。

古城委員長／マイスターの先生に授業改善の一助を担ってもらう仕組みづくりというのがあってもいいのかなと思う。

彌登委員／先生自身がものすごく自信を持って授業をされていて、子どもたちも本当に一体感があり、感心した。

古城委員長／午前中、教育長と一緒に戸畑の小学校に、私も行かせてもらったのだが、40代、50代の先生になると自信をお持ちの先生はたくさんいて、それぞれいい実践をされているということに感心した。そういう先生がリーダーシップ

を取っていけるような、仕組みがあれば、よりよい教育ができるのかなと思う。

垣迫教育長／マイスター教員の素晴らしい授業をどうやって広めるかということは、もう少し具体的なことを考えていきたい。

今日、委員長と一緒に3校回ったが、ちょうど今日で213校、市内全校回った。授業を見ることができていない学校が1校あるので、来週行くが、いろいろ勉強になった。

新年度明けたら、いろいろな集まる場なり、いろいろな感想なり、思いを伝えようとは思っている。いろいろな見方はあるが、いい先生というのは、教室に入って2～3分すれば分かる。それから、いい先生は笑顔、表情がいい。オーケストラのように、30人前後、マックス40人の心をつかまえている。今日も、ある再任用の先生がすごい授業をしていた。分かってなさそうな子に必ず振って確認していくなど、日頃からよく見てやっているのだなというのがよく分かった。そういう授業が市内に広げられるように、また努力したいと思う。

報告終了

4 閉会

15:59 古城委員長が閉会を宣言。